nikko am
Nikko Asset Management

ご参考資料

2018年4月27日
日興アセットマネジメント株式会社

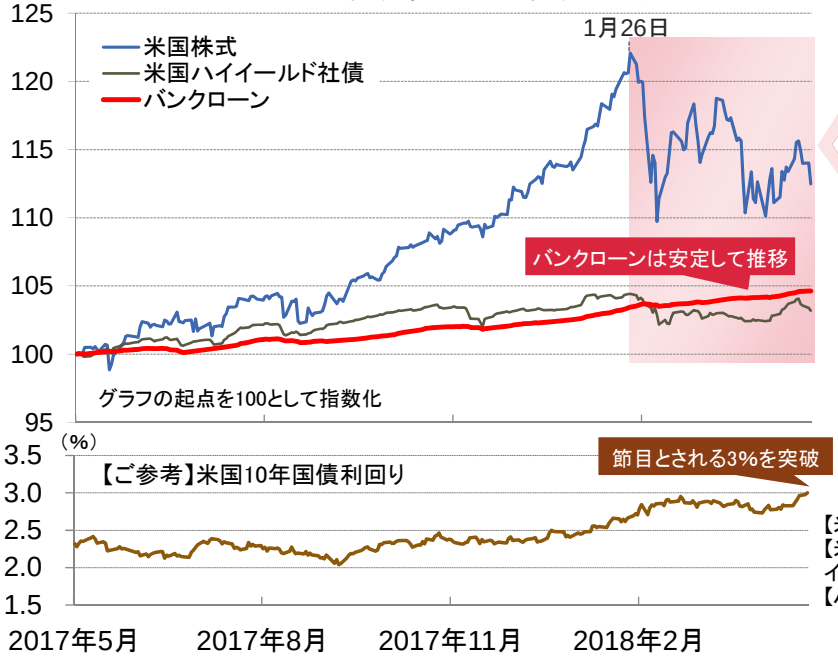
今注目のバンクローン

足元のバンクローン市場の動向とバンクローンを活用する企業のご紹介

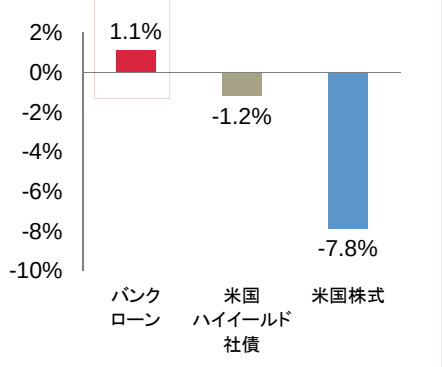
世界的に金融市場が大きく揺らぐなか、バンクローンは安定的に推移

- 景気拡大が続く米国では、賃金上昇率上振れの発表を受けた、利上げペースの加速懸念の強まりなどを背景に、2018年1月末以降、長期金利が上昇傾向となったほか、投資家心理が悪化し株式市場が大きく下落しました。
- 金融市場が長期金利の動向に神経質になるなかで、**バンクローンは安定した推移を続けています**。
- 米国では今後も年内に複数回の追加利上げが見込まれていることから、**金利上昇の影響を受けにくい変動金利の資産**である、**バンクローンへの注目が高まっています**。

＜米国資産のパフォーマンス（米ドルベース）＞
（2017年5月初～2018年4月24日）



＜各資産の騰落率＞
（2018年1月26日～2018年4月24日）



【米国株式】S&P500株価指数（トータル・リターン）
【米国ハイイールド社債】ICE BofAメリルリンチ米国ハイイールドインデックス
【バンクローン】クレディ・スイス・レバレッジド・ローン・インデックス

（信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成）

※上記は過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

■当資料は、日興アセットマネジメントがバンクローンについてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

nikko am
Nikko Asset Management

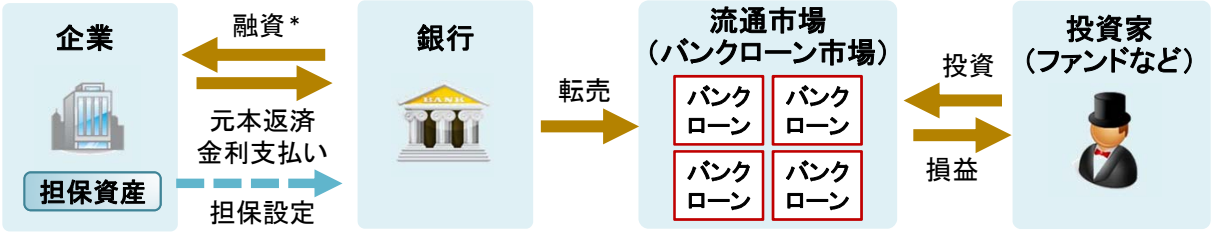
ご参考資料

バンクローンの基礎知識

バンクローンとは

銀行が企業などに対して行なう融資で、流通市場を通して取引されるものをバンクローンと呼びます。バンクローンには、一般に担保が設定されており、株式はもとより、社債などの債券と比較して、企業が破たんした場合における債権の支払い順位が高くなっています。

バンクローンの仕組みと投資のイメージ



＊一般に、融資は複数の銀行が企業に対して融資するシンジケート形式で行なわれます。
※上記はイメージです。

バンクローンの3つの魅力

バンクローンには、一般的な債券（固定金利）と比べると、以下のような3つの魅力が挙げられます。

魅力1　変動金利による強み

金利上昇時に金利収入が増加し、相対的に価格変動が小さくなることが期待されます。

魅力2　相対的に高い利回り水準

投資適格債などと比較して信用力が低い分、利回りが高い傾向にあります。

魅力3　優先担保の付与

通常、第一抵当権が設定されており、デフォルト時にも高い資金回収率が期待されます。

？ バンクローンは金利上昇に強い資産なの！？

短期金利を適用した「基準金利」と、企業の信用力などを加味した「上乗せ金利」で構成されるバンクローンの金利は、一般に、変動金利が採用されており、定期的に見直されます。

市場金利が上昇する局面では、固定金利の債券などの資産は価格が下落する傾向がある一方、**バンクローンは、その資産特性から、固定金利の債券などと比較して下落幅が小さくなる傾向にあり、金利の上昇につれて金利収入も増加することから、金利上昇局面に強い資産といえます。**

※一般に、基準金利にはLIBORが採用されています。金利上昇局面において、LIBORが、定められた最低金利を上回る水準となれば、基準金利は上昇します。

■当資料は、日興アセットマネジメントがバンクローンについてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

nikko am
Nikko Asset Management

ご参考資料

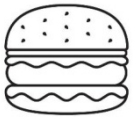
バンクローンは大手企業でも活用されています

バンクローンは、中小企業による活用に限らず、急速に成長している業種や業界再編の動きが目立つ業種などでは、大手企業による活用例も散見されます。バンクローン市場の主要インデックス＊（2018年3月末現在）の中には、日本でもなじみ深い、世界的な大手企業の組入れがあります。

＊クレディ・スイス・レバレッジド・ローン・インデックス（約1,500のバンクローンで構成されるインデックス）

＜バンクローンを活用している大手企業の例＞

レストラン ブランズ インターナショナル



世界的ハンバーガーチェーン

世界約100ヵ国に16,700店舗以上を構える「バーガーキング」を傘下に持つ（2017年12月末時点）。他に、カナダ最大級のコーヒー・ドーナツチェーンである「ティム・ホートン」などを展開。

ヒルトン

世界最大級のホテルグループ

1919年創業、世界105の国・地域に5,200軒以上のホテルなどを展開する世界最大級のホテルグループ（2018年4月時点）。高級ホテルから手頃な価格のホテルまで、多様なブランドを展開。

アメリカン航空

世界最大級の航空会社

世界50ヵ国、約350都市に就航する世界最大級の航空会社（地域協力会社を含む。2018年4月時点）。2013年にはUSエアウェイズと合併。2016年、米国のビジネス誌により、業績回復したトップ企業に選出された。

J.C. ペニー

20世紀初頭に創業された老舗百貨店チェーン

家庭向け衣料品、宝石、靴、アクセサリーなどを取り扱う老舗百貨店チェーン。米国やプエルトリコで店舗を展開。カタログやインターネット販売も行なう。

※掲載銘柄について売買などを推奨するものではありません。また、弊社ファンドにおける保有の有無、並びに将来の組み入れもしくは売却を示唆するものでもありません。
※上記企業の事業内容は当該企業グループの主要事業を掲載しています。
※上記は過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。
※写真はイメージです。

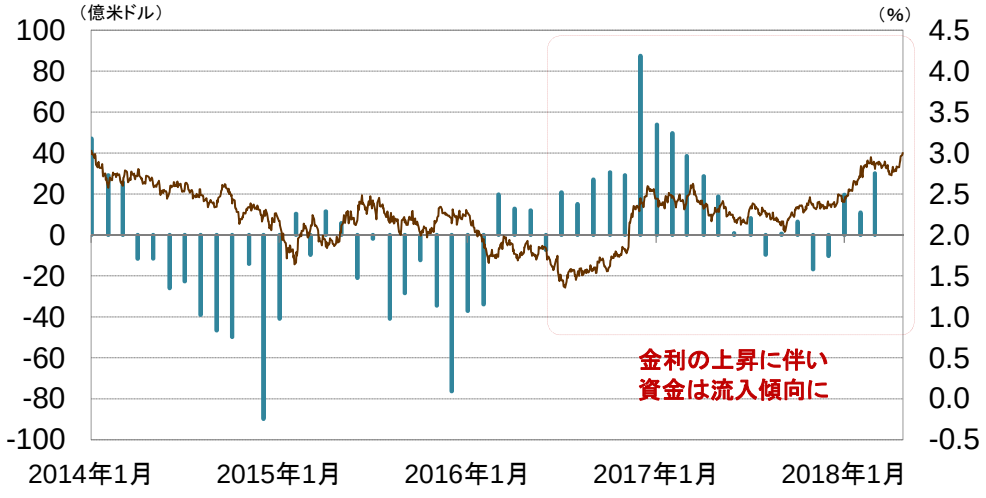
■当資料は、日興アセットマネジメントがバンクローンについてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

ご参考：注目高まる米国バンクローン市場

米国バンクローン市場では資金が流入傾向

米国の投資信託市場では、過去の金利上昇局面でバンクローン型ファンドへの資金流入が増加する傾向がありました。金利上昇が意識され始めた2016年以降、バンクローン型ファンドへの資金流入が続いており、2018年は約60億米ドル（3月時点）の資金が流入しています。

＜米国のバンクローン型ファンドの資金フローと米国10年国債利回りの推移＞
（2014年1月初～2018年4月24日＊）
＊米国のバンクローン型ファンドの資金フローは月次データ、2018年は3月まで



（信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成）

※上記は過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

■当資料は、日興アセットマネジメントがバンクローンについてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。